

はじめての生き物に触れる体験プログラムの作成と実施について

大淀川学習館
総務係長 山口 京子

大淀川学習館
業務係長 日高 謙次

大淀川学習館
学芸員 齋藤 加那子

【要 約】

未就学児が生き物に触れる体験ができるイベントとして、生き物の話と絵本の読み聞かせを組み合わせ実施した。アンケートの結果、参加者は「満足した」「また参加したい」と答えた。また、職員は「準備が負担ではなかった」「来館者の反応もよかった」と答えた。職員の負担もなく、参加者が満足するこのイベントは、定期開催できるイベントになることがわかった。今後は、チョウやサカナだけでなく他のプログラムも準備していきたい。

はじめに

大淀川学習館は、大淀川流域に生息しているサカナやチョウ、ホタルやカメなどを飼育展示し、来館者が自然に触れる体験を通して、生き物や自然、環境問題等を学ぶことのできる教育施設である。

当館の来館者は、未就学児とその家族が大半である。しかし、観察教室事業は、対象が小学生以上であったり、どなたでも参加できるふれあいウィークエンドは、工作等の製作が主であったりするため、未就学児がほんものの生き物を「みて、ふれて、楽しんで」体験するイベントは少ない。

そこで、対象者を未就学児とその家族とし、事前に申し込みが不要で気軽に参加できるプログラムを作成し実施することにした。今後さらに、イベント参加者と職員にアンケートをとり、イベントが継続できるかどうか検討する。

第1章 プログラムの作成

子どもたちは、絵本や紙芝居等の読み聞かせが好きである。生き物の話を子どもたちに人気の読み聞かせと合わせることで、生き物への興味関心を持たせることができると考える。

そこで、今回「チョウ」と「サカナ」をテーマにし、絵本の読み聞かせと絵本に出てきた生き物について話をする事とした。

プログラムの作成は、以下の3つの観点を取り入れる。

観点

- ①生き物を必ず提示すること（館で飼育展示している生き物）
- ②職員と参加者がコミュニケーションを取り合う双方向型（参加型）にすること
- ③季節を感じさせる内容とすること（生き物の今の姿を見せる）

この3つの観点を取り入れ、チョウとサカナのプログラムを作成した(資料1、資料2)。また、会場設営は、参加者がゆったりできるように敷物を準備し、参加方法については、事前に申し込みが不要で当日どなたでも参加できるようにした。

資料1 プログラム①チョウのおはなし

絵本：はらぺこあおむし エリックカール著

会場：学習室(チョウのへやが見える場所)

生き物：蛹(アゲハ類)、成虫(標本)

時間	内容	留意点	役割
5分	○読み聞かせ 絵本「はらぺこあおむし」	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきり読む。 ・参加者を見る。 	担当1：絵本を読む 担当2：補助
15分	○チョウのはなし <ul style="list-style-type: none"> ・絵本と関連づけて、チョウの成長過程(卵→幼虫→蛹→成虫)を話す。 (写真を掲示する) ・絵本と関連づけて、幼虫の食べ物について話す。 ・冬はどのように過ごしているのだろうか。 ・蛹の中身はどうなっているのだろうか。 ・蛹を見せる。 実際に触らせ、色や形、感触を聞く。 (アゲハ類の蛹を準備する) ・成虫の姿を見せる (標本を準備する) ○まとめ 質問 「チョウのへや」の紹介をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に発言ができるようにコミュニケーションを図る。 ・双方向型で話を進める。 (大人にも問いかける) ・触る時間や家族等で話しをする時間を十分にとる。 ・コミュニケーションを図る。 	担当1：補助 担当2：話をする
3分	アンケート		

資料2 プログラム②サカナのおはなし

絵 本：にじいろのさかな マルクス・フィスター著

会 場：サカナのへや（大型水槽前）

生き物：サカナのうろこ（アカメ）

生体（アカメ、ドジョウ、ウナギなど）

時間	内容	留意点	役割
5分	○読み聞かせ 絵本「にじいろのさかな」	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきり読む。 ・参加者を見る。 	担当1：絵本を読む 担当2：補助
15分	○サカナのはなし <ul style="list-style-type: none"> ・絵本と関連づけて、サカナのうろこの話をする。 ・うろこのあるサカナとないサカナがいる。 ・この部屋で、うろこのないサカナは何だろうか。 ・うろこを見せる。 ・この大きいうろこを持つサカナは何だろうか。 実際に触らせ、形、感触を聞く。 （アカメのうろこを準備する） <ul style="list-style-type: none"> ・うろこで何がわかるのだろうか。 うろこに線があることを知らせる。 （うろこの拡大写真を準備する） ・線を数える。 ・子どもたちの年齢を聞く アカメが子どもたちより年上だと知らせる。 ○まとめ 質問 「サカナのへや」の紹介をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に発言ができるようにコミュニケーションを図る。 ・双方向型で話を進める。（大人にも問いかける） ・触る時間や家族等で話しをする時間を十分にとる。 ・コミュニケーションを図る。 	担当1：補助 担当2：話をする
3分	アンケート		

第2章 イベントの実施

12月に4回開催した。参加者数は、以下のとおりである。

「チョウのおはなし」

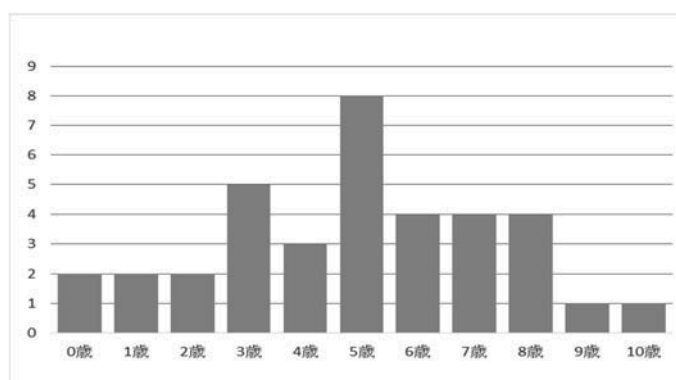
- ・12月14日（水） 大人4人 子ども3人 計7人
- ・12月23日（祝・金）大人16人 子ども19人 計35人

「サカナのおはなし」

- ・12月21日（水） 大人2人 子ども2人 計4人
- ・12月25日（日） 大人7人 子ども12人 計19人 （総計大人29人 子ども36人）

参加した子ども3人の年齢は表のとおりである（表1）。

表1 子どもの年齢と人数



平日は参加者が少なかったが、サカナとチョウの両方参加する組もいた。また、子どもは未就学児が大半であり、8歳以上の子どもは、家族（同伴者）に未就学児がいた（資料3、資料4）。

資料3 チョウのはなしの様子



資料4 さかなのはなしの様子

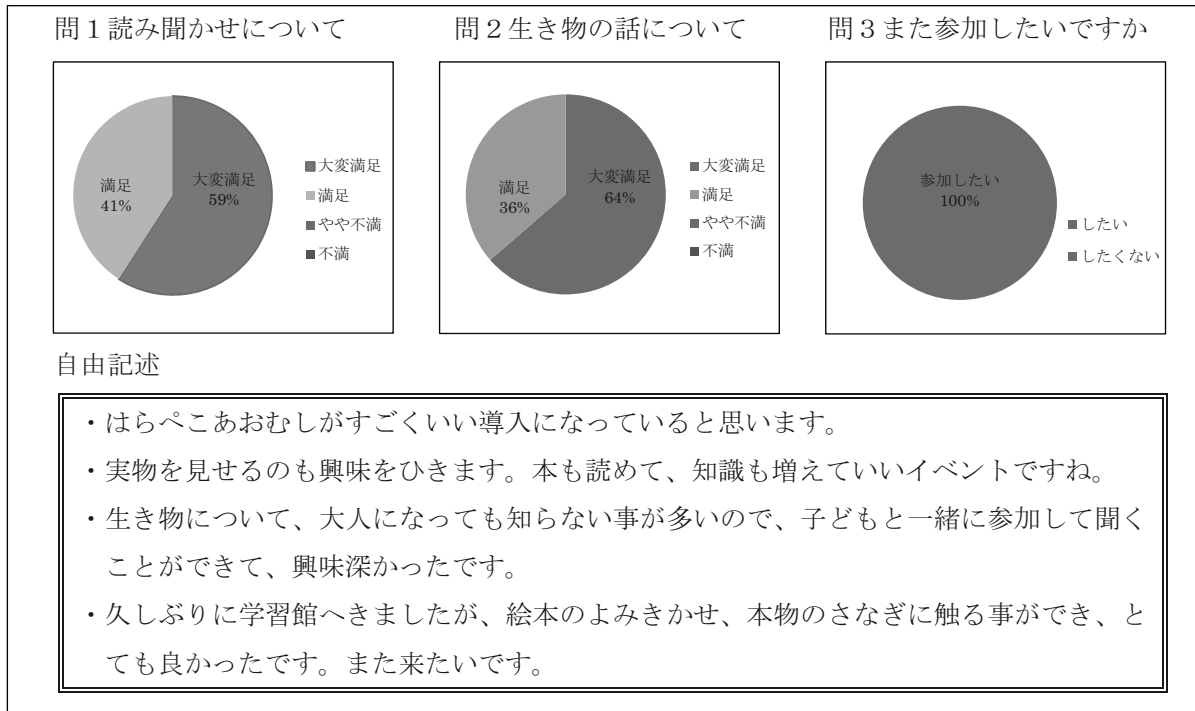


第3章 アンケートの結果と分析

3-1 参加者アンケート

イベント終了後、参加者にアンケートを実施した（資料5）。

資料5 参加者へのアンケート結果



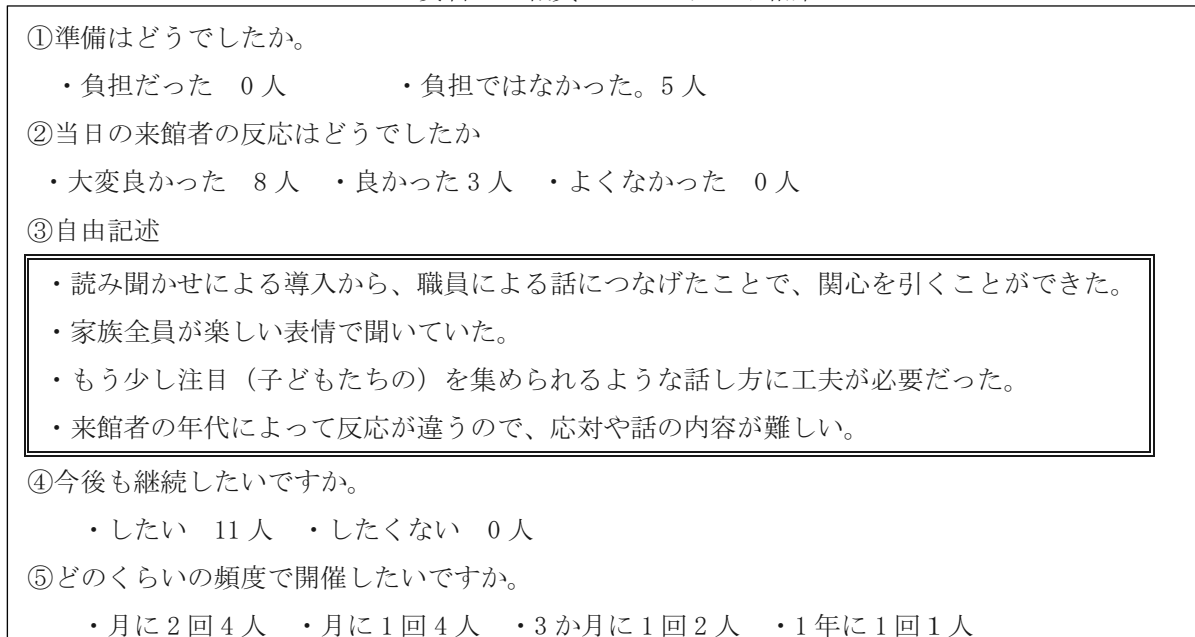
1) 12月実施 回答数 22

アンケートの結果から、参加者は満足し、また参加したいことがわかった。また、絵本が導入となり、絵本に出てきた本物の生き物を見せることは、子どもも大人も一緒に楽しめるイベントになり、子育て世代に受け入れられることがわかった。

3-2 職員アンケート

読み聞かせと生き物の話を担当した職員と担当者以外の職員へアンケートを実施した(資料6)。

資料6 職員へのアンケート結果



2) 1月実施 担当職員5人、担当以外の職員6人

アンケート結果から、担当者は、話の方法や絵本の読み聞かせの方法について課題はあるが、継続し定期開催したいことがわかった。

3-3 成果と課題

成果

- ・生き物の話の導入を絵本で行うことにより、生き物への興味を持たせることができた。
- ・参加者が満足し、今後も参加したいイベントであることがわかった。
- ・飼育展示している生き物を提示したので準備の負担がなかった。このことから、複数回数のイベントになることがわかった。

課題

- ・対象者にあった絵本と話の内容を一致させること。
- ・生き物に合わせた絵本の選定をすること。
- ・定期開催するにあたり、プログラム数を増やすこと。
- ・読み聞かせの技術を習得すること。

おわりに

生き物の話（本物に触れる体験）を子どもたちに人気の読み聞かせと組み合わせることで、生き物への興味関心を持たせることができ、参加者も満足できるプログラムになった。また、職員の準備の負担もないことから、定期開催できるプログラムになることがわかった。今後は、チョウやサカナだけでなく、カメやホタル、植物など様々なプログラムを準備し、次年度より回数を増やして実施していきたいと考える。

子どもたちにとってこのイベントでの体験が、生き物に興味を持つきっかけになることを期待する。